

本学教職課程における授業観察（参観）記録用紙を使用した  
授業技術向上の取り組み

遠藤 健治

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第67号抜刷）

## 本学教職課程における授業観察（参観）記録用紙を使用した 授業技術向上の取り組み

An Attempt to Improve Teaching Skills Using Class Observation Record Papers in  
Mimasaka University's Teacher-Training Course

遠藤 健治

### 要約

小論は、2020年度児童学科教職実践演習（幼・小）、2021年度食物学科事前事後指導（栄養教諭）を例として、本学教職課程における授業観察（参観）記録用紙を使用した授業技術向上のための取り組みを振り返ることにより、その成果と今後の課題を展望することを目的としている。

---

キーワード：教育方法・技術論／授業技術の向上／授業観察（参観）記録用紙

---

### はじめに

教職をめざす学生の授業技術の向上は、大学教職課程の使命である。これに伴い、教職課程は、いかなる学修内容を備えるべきか。本学においては、「よい授業をするためには、よい授業をみて学ばなければならない」という発想のもと、授業観察（参観）記録用紙（以下、記録用紙）を使用した授業技術の向上に取り組んでいる。

授業観察（参観）をとおして授業技術を向上させるためには、相応の知識や技術の獲得、また訓練の積み重ねが必要である。そのため、そうした学修内容を備えた授業が求められる。本学教職課程において、それは、「教育方法・技術論」が該当する。

「教育方法・技術論」について、教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会編『教職課程コアカリキュラム』（2017年）は、その「全体目標」を「これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身に付ける」<sup>1</sup>こととしている。なお、「全体目標

とは、「当該事項を履修することによって学生が修得する資質能力」<sup>2</sup>をさす。そのうえで、同書は、同科目のコアカリキュラムのうちにおいて、「教育の技術」という「まとまり」をあげる。そして、その「まとまり」の一般目標を「教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける」<sup>3</sup>こと、「到達目標」を「話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている」<sup>4</sup>こととしている。なお、「一般目標」とは「全体目標を内容のまとまり毎に分化させた」<sup>5</sup>目標を、「到達目標」とは「学生が一般目標に到達するために達成すべき個々の規準」<sup>6</sup>をさす。

また、高木展郎「教育の方法及び技術」（横須賀薫監修、渋谷治美、坂越正樹編『概説 教職課程コアカリキュラム』2018年、ジダイ社）は、この「教育の技術」という「まとまり」について、「授業・保育を行う上での基礎的な技術は、単に技術のみがあるのではなく、その大きな基として、子供たち、児童生徒を教育によってより成長させたいという思いが重要となる。その思いの上に技術が伴わなければ、表面的な教育活動となることに留意しなくてはならない」<sup>7</sup>と解

説する。

そのうえで、こうした子どもたちへの思いを基礎とした具体的な「教育の技術」として、(1) 子供、児童生徒の置かれた状況に対する理解、(2) 子供、児童生徒に対して、公正・公平な接し方、(3) 子供、児童生徒への褒め方、しかり方、(4) 教室環境の整備、(5) 指導者の立ち位置、目線、(6) 言葉遣い、発声(声の大小)・抑揚、(7) 教材研究の方法、(8) 板書の方法、内容の8点をあげる<sup>8</sup>。

ところで、うえのような「教育の技術」の獲得は、座学だけでは完結しない。そこでの学修を基礎として、教職課程学生が実際の学校現場や教育現場に赴き、「教育の技術」がいかにかに駆使されているのかを目のあたりにし、さらに自ら実践を試みてこそはじめて完結する。そのため、本学教職課程においては、「教育方法・技術論」の学習を基礎として、児童学科では2020年度教職実践演習(幼・小)で、食物学科では2021年度事前事後指導(栄養教諭)で記録用紙を使用した授業技術の向上に取り組んでいる。

果たして、その成果は、そしてその課題は、いかなるものか。本稿は、そうした問題意識のもと、本学教職課程における記録用紙を使用した授業技術向上の取り組みに焦点をあて、それを振り返り、その成果と今後の課題を展望することを目的としている。

## 1. 本学教職課程において使用される授業観察(参観)記録用紙

### 1-1. 2020年度児童学科4年教職実践演習(幼・小)の概要と記録用紙の紹介

まず、本学児童学科4年教職実践演習(幼・小)の概要について述べることからはじめよう。同科目においては、2013年度から毎年度20回から30回程度、教員および受講者が週1回大学近隣の小学校に赴き、児童と給食をともにし、昼休みに交流を深め、5時間目には受講者が教諭の授業を参観し、6時間目には受講者が数名のグループを構成し、そのうちの1名が授業担当者、他の者が授業補助者として、算数科の補充学習を担当している。

教職実践演習(幼・小)において、記録用紙の使用が開始されたのは、2020年度からである。そこで使用されている記録用紙は、図1のとおりである。

こうして受講者は、記録用紙において、月日曜日、校時数、教科、観察者氏名、授業者氏名、学年組、男女児童数、合計児童数を記入したうえで、導入、展開、終末という授業過程に沿って、「めあて」、「まとめ」を含め、「教師の働きかけ(発問・指示など)」、「児童の活動・思考・変容など」を記録し、最終的に授業全体を「感想(児童の活動を中心に)」としてまとめていく。なお、記録用紙においては、観察(記録)のポイントとして、「①授業内容の展開が構築されている」、「②児童の活動を把握している」、「③教師の働きかけによる指導性を発揮している」があわせあげられている。

受講者は、この記録用紙において、5時間目の教諭による、6時間目の授業担当者による授業をそれぞれ記録し、毎回合計2枚の記録用紙を教員に提出する。2020年度においては、コロナウィルス感染拡大の影響から、小学校への参加回数は、18回にとどまった。そのため、一受講者がこの授業に際して提出した記録用紙は、合計36枚であった。

### 1-2. 2021年度食物学科事前事後指導(栄養教諭)の概要と記録用紙の紹介

ここでも、本学食物学科4年事前事後指導(栄養教諭)の概要について述べることからはじめよう。同科目においては、2021年度から20回程度、本実習に関する諸手続き、学外諸学校ならびに給食センターなどへの見学や授業参観、栄養教諭や学校管理職からの講話に加え、受講者のうち1名が教師役として1コマを担当し、本実習での研究授業を想定して指導案や教材を作成、模擬授業を行い、終了後、教員および他の児童生徒役の受講者との講評を実施している。

こうした事前事後指導(栄養教諭)のうち、模擬授業に際し、受講者は、記録用紙を使用して授業を記録する。そこで使用される記録用紙は、図2のとおりである。

こうして受講者は、記録用紙において、月日曜日、校時数、学年組、男女児童生徒数、合計児童生徒数、場所、教科または給食時のいずれか、指導者氏名を記入したうえで、導入、展開、終末という授業過程に沿って、「指導者の働きかけ（発問・指示など）」、「児童の活動・思考・変容など」を記録し、最終的に授業全体を「感想、反省、疑問など」としてまとめていく。これを前述した教職実践演習（幼・小）で使用される記録用紙と比較するならば、栄養教諭が小学校のみならず、中学校などにも赴任する可能性があることから、「生徒」という文言が加えられている。また、その指導が教科領域のみならず、学級活動を中心とした特別活動領域で行われる可能性もあることから、教室以外も含めた「場所」という文言も加えられている。さらに、栄養教諭による指導は1単位時間で完結することが多いことから、「題材（単元）名」、「題材（単元）の目標（ねらい）」の記入欄が設けられている。それ以外は、教職実践演習（幼・小）で使用される記録用紙とほぼ同様の形式である。

2021年度において、こうした模擬授業は7回実施された。そのため、一受講者がこの授業に際して提出した記録用紙は、合計7枚であった。また、受講者は、大学近隣の小学校において、栄養教諭による授業を参観する機会にも恵まれた。そのため、その授業についても、同様に記録用紙をもってまとめている。

## 2. 授業観察（参観）記録用紙記入の実際

### 2-1. 2020年度児童学科4年教職実践演習（幼・小）における記入の実際

では、記録用紙における記入の実際とは、いかなるものであったのか。まず、教職実践演習（幼・小）における記入例をみることにしよう。

#### ①オーソドックスな記入例

図3は、もっともオーソドックスな記入例である。それは、受講者が教師の発問や問題の提示、言葉がけ、机間指導、板書など、また児童の発言や行動など、授業全体の流れを事細かに記録していることによる。こ

こでは、第5学年算数科の授業を観察（記録）の対象としている。

また、図4も、同じ授業を対象としたオーソドックスな記入例である。ここで受講者は、授業全体の流れを追いかけ、教師や児童の言動を1枚の用紙にコンパクトにまとめている。

なお、感想欄をみるならば、図3における受講者が「4年生と違い、5年生は発表に消極的だった。しかし、学習能力は高く、最後に記述した計算方法には『なるほど』と思った」と記入し、児童の言動に注目して授業を記録していることがわかる。一方、図4における受講者が「5年生はノートに自分の考えを書いている、なかなか手を挙げて発表できない様子だった」と図3における受講者と同様に児童の言動に注目した記述を行うとともに、あわせて「そのようなとき、先生は周りの友達に説明し合わせたり、児童同士で推薦し合わせたりと、児童が自信をもって発表できるような支援をされていた」とも記入し、児童の言動に対する教師の言動も記録していることがわかる。これら記録用紙は、同じ授業を観察（参観）し、記録しても、受講者の問題意識や視点により、その内容が異なるという好例である。これをふまえるならば、記録用紙の記入に際し、受講者が自らの授業技術の向上のためにいかなる問題意識をもち、いかなる視点をもって授業の観察（参観）に臨むのが重要であることがわかる。極端な言い方をすれば、受講者は記録用紙において授業全体の流れを漏れなく記入する必要はかならずしもない。授業技術向上のためには、その問題意識や視点に応じた記録を残すことが肝要である。そこで、以下、特定の視点をもった記録用紙を紹介しよう。

#### ②発問に注目した例

図5は、発問に注目した記入例である。ここでは、第6学年特別の教科 道徳の授業を観察（記録）の対象としている。受講者は、その教科の特性に照らし、教師の中心発問を軸として授業の流れをまとめている。

また、感想欄をみるならば、受講者が中心発問のみ

ならず、「授業内だけの話ではないと強調して先生は伝えていたので、大切なことだなと感じた」と教師の発問だけでなく、その授業をふまえての児童への働きかけや、「(児童) 普段放課後学習では見られない一面も見られてすごく良い経験になった」と教師の働きかけを受けた児童の反応も視野に入れて授業を記録していることがわかる。

### ③板書に注目した例

図6は、板書に注目した例である。ここでは、第6学年の算数科、なかでも多角形や円といった図形を扱う単元の授業を観察(記録)の対象としている。こうした単元においては、図形を板書に示しながらの指導が中心となる。受講者も、教師が板書に描く図形を軸として授業の流れをまとめている。

また、感想欄をみるならば、受講者が「チャイムスタートが出来た。休み時間と授業の切り替えが出来ていた」と記入し、授業全般をとおしてみた学習規律の徹底という点までも視野に入れて記録していることがわかる。

### ④児童の動きに注目した例

図7は、児童の動きに注目した例である。ここでは、第3学年の体育科の授業を観察(記録)の対象としている。受講者は、教科の特性に照らし、児童の動きを軸として授業の流れをまとめている。

また、感想欄をみるならば、受講者が「女子と男子では、やはり差があらわれる」、「ヘディングでも、女子児童はボールを怖がっている姿が見られた」と児童の動き、なかでも性別による児童の動きに注目した記述をするとともに、「児童同士での教えあいを増やすことが大切だと感じた」と体育科における指導上の留意点も発見していることがわかる。

## 2-2. 2021年度食物学科事前事後指導(栄養教諭)における記入の実例

つぎに、事前事後指導(栄養教諭)における記入例をみることにしよう。

### ①オーソドックスな記入例

まず、受講者が授業全体の流れを事細かに記録しているオーソドックスな記入例を図8として示すことにしよう。ここでは、栄養教育実習での研究授業を想定した第6学年の学級活動の時間における食に関する指導を観察(記録)の対象としている。その題材(単元名)は、「バランスの良い朝ごはんって何?」である。なお、教師役受講者は、他の児童役受講者に対し、本時の指導案やワークシートを事前に配布している。そのため、児童役受講者は、それら指導案やワークシートを参照しながら、授業の流れをまとめている。

食物学科学学生はこれまで授業を観察(記録)する経験が少なく、あわせて中高家庭科教諭免許状の取得を希望する者もいることから、経過時間を記入し忘れたり、「児童」を「生徒」と書き間違えるといったケースもある。そうした問題点を含みつつも、受講者は、教師役受講者の発問や言葉かけ、板書、ワークシートに関する指示、机間指導の様子など、またこれに呼応した児童役受講者の言動を丁寧に追いかけて、授業全体の流れを詳細に記録している。また、感想欄をみるならば、受講者が指導案の記述や「献立を児童に立ててもらうのに、シールを活用し、児童が楽しく授業に参加できるような工夫がされており」というように教具、教材までも視野に入れて記入していること、あるいは「児童の発言を拾ったり、児童との会話が増えることによりよくなるのではないか」といった批判的視点をもって授業を観察(記録)していることがわかる。

### ②発問に注目した例

図9は、発問に注目した記入例である。ここでは、前述した現職栄養教諭による第2学年の学級活動の時間における食に関する指導を観察(記録)の対象としている。その際、第2学年の学級担任教諭(T1)と栄養教諭(T2)による複数体制で授業が展開されている。こうした授業形態をふまえ、受講者は、栄養教諭の児童への発問を軸として、栄養教諭と担任教諭との連携、担任教諭の児童への発問や働きかけ、そしてそれら発問に対する児童の言動に注目して授業の流れ

をまとめている。

また、感想欄をみるならば、受講者が教師と児童との対話のみならず、「担任の先生との連携がしっかりしており」と担任教諭と栄養教諭との連携の様子や、「クイズや食物繊維ちゃんなど視覚的に印象に残りやすいものを使用したり」と教具、教材を用いた指導上の工夫点までも視野に入れて記録していることがわかる。さらに、本記入例においては、つぎに触れるような板書上の図を積極的に記録している点も特徴的である。

### ③板書に注目した例

図10は、板書に注目した例である。ここでは、栄養教育実習での研究授業を想定した第6学年の学級活動の時間における食に関する指導を観察（記録）の対象としている。その題材（単元名）は、「魚のはたらきを知り、残さず食べよう」である。本題材（単元）においては、魚の部位名やその栄養素、そしてその体への働きをあらわした図を板書に示しながらの指導が中心となる。受講者も、教師役受講者が板書に描く図形を軸として授業の流れをまとめている。なお、ここでも、教師役受講者は、他の児童役受講者に対し、本時の指導案やワークシートを事前に配布している。

また、感想欄をみるならば、受講者が「教材にインパクトがあり、とても興味がわいて良いと思った」と記入し、授業における図の重要性を実感していることがわかる。さらに「児童をほめたり、感謝の言葉をたくさん言っていて良かった」というように児童への言葉かけや、「終末を工夫するとさらに良い授業になると思った」とやはり批判的視点をもって授業を観察（記録）していることもわかる。

## 3. 授業観察（参観）記録用紙のアンケート結果—おわりに代えて—

ところで、こうした記録用紙を使用した授業技術の向上の取り組みは、どれほどの成果をあげたのか。また、その課題とは、いかなるものか。それを明らかにするため、2021年度食物学科事前事後指導（栄養教諭）

受講者6名に対し、アンケート調査を行った。以下、本稿のおわりに代えて、各設問ごとにその結果をみることにしよう。

設問（1）「授業および給食指導観察記録用紙」を使用してみて授業を観察する意識や行動に変化がありましたか。

この設問に対し、「あった」と回答した受講者は5名、「なかった」と回答した受講者は1名であった。これによれば、ほとんどの受講者が記録用紙を使用することにより、授業を観察（記録）する際の自らの意識や行動に変化が生じたと感じていることがわかる。それは、具体的には「発問や板書など自分が大事にしたいことを注目して観察できるようになった」、「視点を定めて観察できた」、「授業を観察する際にただ単に観察するのではなく、着眼点をもつことで、より深く観察することができたと感じました」といった回答のように、授業を観察（記録）するに際し、自らの問題意識を明確にし、それに照らし、観察（記録）の視点や着眼点をもとうとする意識、また実際にそれらをもって授業の観察（記録）に臨もうとする意欲や態度がもたらされたことであったことがわかる。

設問（2）「授業および給食指導観察記録用紙」を使用してみて授業力の向上に対する意識や行動に変化がありましたか。

この設問に対し、受講者全員が「あった」と回答した。これによれば、すべての受講者が記録用紙を使用することで、自らの授業力の向上に対する意識や行動に変化が生じたと感じていることがわかる。それは、一つには「他の人の授業を見て、いいなと思ったところを自分の授業にも取り入れてみようと思った」、「授業の流れや児童の反応をイメージしやすくなった」、「他の人の授業を記録することで、同じテーマで授業を行う参考になったり、まとめることで授業内容を整理できた」といった回答のように、他の受講者の授業

を観察（記録）することの重要性への気づきをもたらされたことである。いま一つには、設問（1）への回答とも重複するが、「色々な人の授業を注目した点から見る事ができたので、発問を工夫したら児童の反応が変わってくるなど、自分の授業でも取り入れようと思った」、「着眼点をもつことで、細かい授業時の工夫も発見することができるため、とても勉強になりました」といった回答のように、授業を観察（記録）するに際して観察（記録）の視点や着眼点をもつこと、それをもって実際に授業を観察（記録）することが自らの授業力の向上につながるとの理解がもたらされたことである。

設問（3）「授業および給食指導観察記録用紙」のフォーマットについて改善すべき点がありますか。

この設問に対し、「ある」と回答した受講者は1名、「ない」と回答した受講者は5名であった。そのうち、「ある」と回答した受講者は、具体的に「題材（単元）の目標（ねらい）」を書く欄が狭くて入らなかった」という改善点を指摘している。事前事後指導（栄養教諭）における記録用紙は、すでに図2に示している。これへの入力、パソコンで行うため、入力欄を適宜広げれば、長文の「題材（単元）の目標（ねらい）」も入力可能と考えられる。しかし、今後は、こうしたアンケート結果を反映して、より広い入力欄を備えたフォーマットを準備したい。

設問（4）「授業および給食指導観察記録用紙」のフォーマット以外の使用方法などについて改善すべき点がありますか。

この設問に対しては、受講者全員が「ない」と回答した。

設問（5）今後も「授業および給食指導観察記録用紙」などの記録用紙を用いた方法で授業力の向上をはかりたいですか。

この設問に対し、「はい」と回答した受講者は5名、「いいえ」と回答した受講者は1名であった。そのうち、「はい」と回答した受講者は、「記録用紙の書き方にも慣れてきたところなので、継続していければと思います」、「実習の際の授業などで活用したいと思った」といった回答のように、今後の授業や実習に際しても、記録用紙の使用に前向きな姿勢を示している。またなかには「自分がした授業に対して書いてくれたことを見て授業の改善に役立てたい」といった回答のように、教師役受講者が自らの授業をみた児童役受講者による記録用紙を参考として自らの授業力の向上をはかりたい、あるいは「もっとたくさんの人の授業を見学、記録して自分の授業に活かしたいと思う」といった回答のように、より多くの授業を観察（記録）する機会を求める意見もみられた。

設問（6）記録用紙以外に授業力の向上をはかりたい方法はありますか。

この設問に対し、「ある」と回答した受講者は1名、「ない」と回答した受講者は5名であった。それは、具体的には「撮影」といった回答であり、自らの授業の様子をビデオなどで撮影し、授業後の反省に生かしたいという希望であった。前述のように設問（5）への回答のうちには、「自分がした授業に対して書いてくれたことを見て授業の改善に役立てたい」といった回答もみられた。授業の観察（記録）に際しては、とりわけ教師役受講者に対し、その結果をいかにフィードバックするのが今後の課題である。

設問（7）「授業および給食指導観察記録用紙」  
を使用しての感想や意見を自由に記入してく  
ださい。

この設問に対しては、「これまでは、記録用紙等をもちいずに、授業を聞くだけだったので授業を聞いて終わりになってしまっていたのですが、記録用紙を用いることで授業のふり返りをする事ができるため、今後自分が授業づくりをする際にも参考にすることが可能になると思いました」といった回答のように、そうじて受講者が記録用紙を使用することが自らの授業力の向上につながることを実感できたとの意見がみられた。また「自分が大事にしたいことに注目して書くことができるのが良いと思った」といった回答のように、授業の観察（記録）に際し、自らの問題意識により観察（記録）の視点や着眼点をもつことの重要性に気づいたとの意見や、さらに「視点が偏りがちなので、いろいろな記録用紙ごとに視点を変えればよかった」といった回答のように視点を固定するのではなく、授業を観察（記録）するごとにさまざまな視点や着眼点をもつことへの重要性への気づきもみられた。なお、記録用紙を使用した授業の観察（記録）の「副作用」として、「とめ、はね、はらいなど意識して書くことで以前より字が上手に書けるようになった」といった回答のように、うえにあるような「授業づくり」についてだけでなく、板書技術についても他の受講者の授業をみることで刺激を受け、その向上につながったとの意見もみられた。

#### 註

- 1) 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会編『教職課程コアカリキュラム』2017年、22頁。
- 2) 同前、3頁。
- 3) 同前、22頁。
- 4) 同前。
- 5) 同前、3頁。
- 6) 同前。
- 7) 高木展郎「教育の方法及び技術」（横須賀薫監修、

渋谷治美、坂越正樹編『概説 教職課程コアカリキュラム』2018年、ジダイ社）130頁。

8) 同前。

授業参観記録用紙

日時 月 日 ( ) 先生 年 校時 組 男 女 名 計 名  
授業者 学籍 学年 教科 観察者 男 女 名 計 名

①授業内容の展開が構築されている。②児童の活動を把握している。③教師の働きかけによる指導性を発揮している。

時間	教師の働きかけ (発問・指示など)		児童の活動・思考・変容など
導入 分	あて		
展開 分			
終末 分	まとめ		
感想 (児童の活動を中心に)			

図 1 教職実践演習 (幼・小) における記録用紙フォーマット

授業および給食指導観察記録用紙

月 日 曜 校時	年 組 男 女 計	場所
教科または給食時		
題材 (単元) 名		
題材 (単元) の目標 (ねらい)		
過程	指導者の働きかけ (発問・指示など)	児童生徒の活動・思考・変容など
指導者名		
感想、反省、疑問など		

図 2 事前事後指導 (栄養教諭) における記録用紙フォーマット





授業参観記録用紙

日付 2月24日(水) 7校時 算数 教科書 6年 2冊 男 5名 女 3名  
 担任者 先生 学年 6年 2冊 男 5名 女 3名  
 ①授業内容の要約が書かれている。②児童の活動を把握している。③教師の働きかけによる児童性を発揮している。

時間	教師の働きかけ (説明・指示など)	児童の活動・思考・実演など
導入 5分	・商売の従事者は何人? ・人数とある2シートに書かば	「お・は・い」 ・人数とある2シートに書く
展開 30分	・「お・は・い」シートに書かば ・人数とある2シートに書かば ① $360 \div 5 = 72$ ② $360 \div 3 = 120$ ③ $100 - 72 = 28$ ④ $100 - 120 = -20$ ⑤ $100 - 120 = -20$ ⑥ $100 - 120 = -20$ ⑦ $100 - 120 = -20$ ⑧ $100 - 120 = -20$ ⑨ $100 - 120 = -20$ ⑩ $100 - 120 = -20$ ⑪ $100 - 120 = -20$ ⑫ $100 - 120 = -20$ ⑬ $100 - 120 = -20$ ⑭ $100 - 120 = -20$ ⑮ $100 - 120 = -20$ ⑯ $100 - 120 = -20$ ⑰ $100 - 120 = -20$ ⑱ $100 - 120 = -20$ ⑲ $100 - 120 = -20$ ⑳ $100 - 120 = -20$ ㉑ $100 - 120 = -20$ ㉒ $100 - 120 = -20$ ㉓ $100 - 120 = -20$ ㉔ $100 - 120 = -20$ ㉕ $100 - 120 = -20$ ㉖ $100 - 120 = -20$ ㉗ $100 - 120 = -20$ ㉘ $100 - 120 = -20$ ㉙ $100 - 120 = -20$ ㉚ $100 - 120 = -20$ ㉛ $100 - 120 = -20$ ㉜ $100 - 120 = -20$ ㉝ $100 - 120 = -20$ ㉞ $100 - 120 = -20$ ㉟ $100 - 120 = -20$ ㊱ $100 - 120 = -20$ ㊲ $100 - 120 = -20$ ㊳ $100 - 120 = -20$ ㊴ $100 - 120 = -20$ ㊵ $100 - 120 = -20$ ㊶ $100 - 120 = -20$ ㊷ $100 - 120 = -20$ ㊸ $100 - 120 = -20$ ㊹ $100 - 120 = -20$ ㊺ $100 - 120 = -20$ ㊻ $100 - 120 = -20$ ㊼ $100 - 120 = -20$ ㊽ $100 - 120 = -20$ ㊾ $100 - 120 = -20$ ㊿ $100 - 120 = -20$	
終末 10分	・人数とある2シートに書かば ・人数とある2シートに書かば	・人数とある2シートに書く ・人数とある2シートに書く

図6 板書に注目した記入例

授業参観記録用紙

日付 2月24日(水) 6校時 算数 教科書 6年 3冊 男 2名 女 1名  
 担任者 先生 学年 6年 3冊 男 2名 女 1名  
 ①授業内容の要約が書かれている。②児童の活動を把握している。③教師の働きかけによる児童性を発揮している。

時間	教師の働きかけ (説明・指示など)	児童の活動・思考・実演など
導入 10分	・「お・は・い」シートに書かば ・人数とある2シートに書かば	「お・は・い」シートに書く ・人数とある2シートに書く
展開 30分	・「お・は・い」シートに書かば ・人数とある2シートに書かば ① $360 \div 5 = 72$ ② $360 \div 3 = 120$ ③ $100 - 72 = 28$ ④ $100 - 120 = -20$ ⑤ $100 - 120 = -20$ ⑥ $100 - 120 = -20$ ⑦ $100 - 120 = -20$ ⑧ $100 - 120 = -20$ ⑨ $100 - 120 = -20$ ⑩ $100 - 120 = -20$ ⑪ $100 - 120 = -20$ ⑫ $100 - 120 = -20$ ⑬ $100 - 120 = -20$ ⑭ $100 - 120 = -20$ ⑮ $100 - 120 = -20$ ⑯ $100 - 120 = -20$ ⑰ $100 - 120 = -20$ ⑱ $100 - 120 = -20$ ⑲ $100 - 120 = -20$ ⑳ $100 - 120 = -20$ ㉑ $100 - 120 = -20$ ㉒ $100 - 120 = -20$ ㉓ $100 - 120 = -20$ ㉔ $100 - 120 = -20$ ㉕ $100 - 120 = -20$ ㉖ $100 - 120 = -20$ ㉗ $100 - 120 = -20$ ㉘ $100 - 120 = -20$ ㉙ $100 - 120 = -20$ ㉚ $100 - 120 = -20$ ㉛ $100 - 120 = -20$ ㉜ $100 - 120 = -20$ ㉝ $100 - 120 = -20$ ㉞ $100 - 120 = -20$ ㉟ $100 - 120 = -20$ ㊱ $100 - 120 = -20$ ㊲ $100 - 120 = -20$ ㊳ $100 - 120 = -20$ ㊴ $100 - 120 = -20$ ㊵ $100 - 120 = -20$ ㊶ $100 - 120 = -20$ ㊷ $100 - 120 = -20$ ㊸ $100 - 120 = -20$ ㊹ $100 - 120 = -20$ ㊺ $100 - 120 = -20$ ㊻ $100 - 120 = -20$ ㊼ $100 - 120 = -20$ ㊽ $100 - 120 = -20$ ㊾ $100 - 120 = -20$ ㊿ $100 - 120 = -20$	
終末 5分	・人数とある2シートに書かば ・人数とある2シートに書かば	・人数とある2シートに書く ・人数とある2シートに書く

図7 児童の動きに注目した記入例







授業および給食指導観察記録用紙

6月21日	月曜	3校時	6年	1組	男	④	場所	133H
教科または給食時			指導者名					
題材(単元)名			魚のけたらきを知り、けだまを作ろう					
題材(単元)の目標(ねらい)								
過程	指導者の働きかけ(場面・指示など)		児童生徒の活動・思考・発言など					
導入 7分	<p>「五大栄養素と3つのたんぱく質について知っている?」</p> <p>「給食の栄養量の中でたんぱく質はどれくらい?」</p> <p>「魚はたんぱく質の宝庫だ?」</p>		<p>「たんぱく質」「たんぱく質」「たんぱく質」</p> <p>「たんぱく質」「たんぱく質」「たんぱく質」</p> <p>「たんぱく質」「たんぱく質」「たんぱく質」</p>					
展開 29分	<p>④ 魚のけたらきを知り、けだまを作ろう</p>  <p>魚の部位ごとに含む栄養素は何か? (たんぱく質、たんぱく質、たんぱく質)</p> <p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p> <p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p>		<p>「たんぱく質」「たんぱく質」「たんぱく質」</p> <p>「たんぱく質」「たんぱく質」「たんぱく質」</p> <p>「たんぱく質」「たんぱく質」「たんぱく質」</p> <p>「たんぱく質」「たんぱく質」「たんぱく質」</p>					
終末 10分	<p>「たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質」</p> <p>「たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質」</p> <p>「たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質」</p>		<p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p> <p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p> <p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p>					
感想、反省、疑問など			<p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p> <p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p> <p>たんぱく質はたんぱく質、たんぱく質、たんぱく質</p>					

図10 板書に注目した記入例